

発掘成果をふりかえって 2004

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



発掘調査の位置



1 相国寺旧境内 上京区今出川通烏丸東入る相国寺門前町

相国寺にある承天閣美術館で、飛鳥時代から奈良時代にかけての集落跡が見つかった。竪穴住居跡20棟と掘立柱建物跡1棟を確認し、住居跡からは、かまど跡や鉄のかす、ふいごの羽口などが出土した。製鉄に明るい出雲系氏族がこの辺り一帯に集住していたという文献の記載もあり、その関わりをうかがわせる。



2 大宅廃寺跡 山科区大宅烏井脇町

大宅廃寺跡から瓦積の基壇跡が見つかった。奈良時代の創建で平安時代まで続いたとされる伽藍の主要部と考えられる。基壇は南北約4mにわたり、縁には瓦が6～7層積まれていた。近くからは塔の先端を飾る水煙の破片も出土している。



3 平安京右京六条三坊六町 出土遺物 右京区西院西溝崎町

平安時代の井戸跡から木製人形ひとがたが出土した。男女2体の人形(高さ23cmと高さ16.5cm)は立体的な作りで両腕を後ろに回し、体と腕は木釘で止めた跡があった。胴体には、人名が「葛井福万呂」「檜前阿古」と墨書され、呪詛に使われたと思われる。



4 小野瓦窯 左京区上高野小野町

『延喜式』に記載の官営瓦工房「小野瓦屋」の窯跡を確認した。11世紀初めから中頃にかけての操業とみられ、他にも窯の残存が期待できる。おかいらの森は廃棄瓦を積み上げて造られていた。



5 平安京右京一条四坊十三町 右京区花園伊町

JR花園駅の東で池跡を検出した。法金剛院旧境内の東隣にあたり、12世紀前半から中頃にできた邸宅の園池とみられる。これまでに法金剛院の園池・建物・門・塔跡などが見つかった。



6 史跡・名勝 嵐山 右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町

鎌倉時代の離宮・亀山殿の建物遺構を検出。嵐山を望む棧敷殿の基礎部分の掘り込み地業跡と考えられる。また、天龍寺旧境内にあり、室町時代前期の天龍寺・霊庇廟の遺構を初めて確認した。



7 上京遺跡 上京区寺之内通新町西入る妙顕寺前町

『洛中洛外図屏風』に描かれている、室町時代後期の典蔵家^{てんざうけ}の堀や井戸などを検出した。平成15年、遺跡地図に新たに登録された上京遺跡として最初の調査である。



8 淀城跡 伏見区淀池上町

淀城跡で江戸時代の米蔵とみられる建物跡を検出した。入念な整地層の上に、根石を詰めた直径・深さともに2mの礎石据付け跡が並んでいた。本丸の北東にあり、築城時のものとみられる。



9 平安京左京六条三坊五町 下京区楊梅通新町東入る上柳町

市立尚徳中学校跡地で幕末期の町屋が見つかった。町屋は、戸口を通りに向けた12軒を確認した。「蛤御門の変」の火災で焼け落ちた瓦や陶磁器類が多数出土している。